

令和4年度 常盤小学校 自己評価報告書

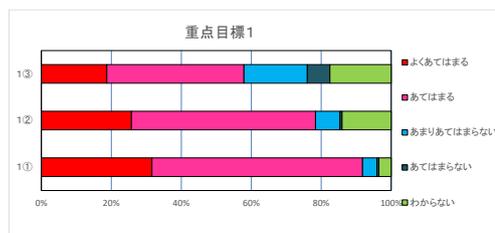
学校（園）名：常盤小学校 所在地：中央区日本橋本石町 4-4-26
 校（園）長名：永井 勝巳
 児童（生徒）数 320名 学級数 12学級 教員数 17名 職員数 37名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標 1

◆確かな学力の向上 「基礎的・基本的な学力と学びの深まりや広がりのある学習の定着」

- ① 基礎的・基本的な学力の定着が図られている。
- ② 主体的、対話的で深い学びの定着が図られている。
- ③ ICT 機器を活用した個別指導が充実している。



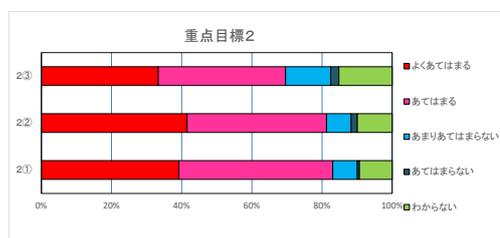
保護者アンケートの全体の傾向として、どの項目も「よくあてはまる」「あてはまる」と肯定的評価を合わせると50%でした。今後は肯定的評価の割合を80%以上占めることを目標に、教育活動を展開してまいります。「基礎的・基本的な学力の定着」では、保護者・児童アンケートでも8割の児童が意識して取り組んでいると答えています。また、学校では国、都、区が実施している学力調査や英語の検定等外部の評価などを検証し、授業改善を行っており、児童個々の学習状況や教科の特性に応じて、基礎的基本的な学力の定着、学びの広がりや深まりのある学習に努めてまいります。設問「主体的、対話的で深い学びの定着」では、習熟に差がでやすい算数科をはじめとする教科については、休み時間での個別指導の実施や習熟別に対応したドリル学習の実施、児童の実態に応じたグループを編成しての授業を実施するなど個々の能力に応じた指導をこれからも行います。

設問「ICT 機器を活用した個別指導の充実」では、教員は各教科で一人一台貸与されているタブレット端末を利用し、ICT 機器を活用した授業改善を推進してまいります。児童の情報活用能力の向上を図るために先行研究や実践を積極的に取り入れてまいります。しかし、児童、教員の自己評価は高いものの、保護者の評価はあてはまらない評価や分からないという回答を合わせると4割を占めました。評価に差があるため、学校の取り組みの伝え方や保護者のご意見を踏まえながら改善を図ってまいります。

重点目標 2

◆国際的な小学校へ向けての土台づくり 『『和文化と異文化』の理解と調和』

- ①「聞く・話す・読む・書く」の英語授業を実践している。
- ②外部（大学・企業・地域等）連携による授業が実践されている。
- ③中央区国際教育推進パイロット校として、国際交流の実践がなされている。



「聞く 話す 読む 書く」の英語授業の実践について、児童の自己評価は各学年8割以上の肯定的な評価を得ました。保護者の評価で、保護者や児童共々、多くの方に肯定・肯定的な評価を8割以上いただきました。自由記述の中に、もっと高度な内容を求める意見がありました。学習指導要領に示されている内容を基準に実施しているため、中学校の内容を先取りすることができません。しかし、本校では児童が英語を使ってコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上など目指しています。

「外部（大学・企業・地域等）連携による授業実践」については、コロナ禍ではありましたが感染防止対策を行うことで多くの学習活動を実施することができました。2年生の街探検、3年生の地域

のお祭り、4年生老舗めぐり、5年生の日本橋工房との連携した地域の未来について考える取組や着付け体験や礼法指導、6年生の企業やNPO法人と連携したキャリア教育や国際理解教育など、地域の方々にたくさんのご協力をいただきました。今後も地域や企業、NPO法人等との学習活動を通して、「地域にともにある学校 常盤」の一員であるという誇りをもち、地域愛や愛校心の育成につなげていきたいと思ひます。

「中央区国際教育推進パイロット校」として、国際交流の実践」について、今年度は高学年では外部の方々と英語で交流できる機会を多く設定することができました。この経験は英語を使ってコミュニケーションのよさを体得することができました。今後は体験できる学年を拡大していきたいと考えております。また、子供たちに英語を使うことに抵抗感をもつ子もいるので、ここの事態にも応じた指導ができるよう教員の指導力も高めてまいります。

重点目標 3

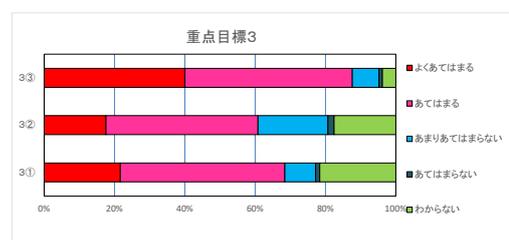
◆豊かな心と体づくり 「心も体も健康で、ねばり強く最後まで取り組む子の育成」

①特別な教科道徳や命と心の授業、人権標語づくり

活動が充実している。

② マイスクールスポーツ（縄跳び ペースランニング等）に取り組み、運動能力の向上が図られている。

③ 異学年交流活動等を通して、他者を思いやる心を育てている。



「児童が特別な教科道徳や命と心の授業、人権標語づくり活動を充実する。」設問では、立場の異なる他者を尊重できたという児童では思いやりをもって行動できたかという自己評価では、肯定・肯定的評価が90%以上ありました。しかし、児童間には、経験やコミュニケーション不足が原因で相手が不快になりトラブルになることもあるという現状についても心配される意見も多くありました。学校では、円滑な人間関係の構築する社会的スキルの獲得するために、特別な教科道徳をはじめする教育活動を通して育成してまいります。これは保護者の皆様と協力して取り組まなければなりません。道徳授業地区公開講座や国際交流活動などの人権意識を醸成させる活動を参考に、学校と保護者が同じ価値観をもって取り組んでまいりたいと考えております。今後も児童の実態に応じた活動を取り入れるとともに子どもたちが他者を尊重する行動ができるよう指導を継続してまいります。

昨年度、外部評価委員会から本校の課題の一つとして、児童が主体的に運動に関わる意識が低いという指摘を受け、今年の重点目標として「マイスクールスポーツ（なわとび ペースランニング）に取り組み、運動能力の向上を図る」項目を設定いたしました。今年は体育の時間には指導内容ごとにめあてや振り返りを行う自己評価の機会を増やし、達成感をより体得できる工夫をして取り組むことで、児童の意欲の向上を図ることができました。保護者等の評価ではまだ不十分であるという意識の差があります。この差を改善するためには、学校だけでなく家庭の協力も必要です。学校では家庭でも日常的に運動を楽しめる技能の習得や進んで体を動かし運動能力を向上できる環境を整えていきたいと考えております。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

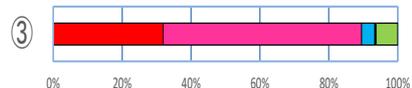
①学校は学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。



②学校は子どもに基礎学力が身に付くように教えている。



③学校は通知表等を通して児童の学力を適正に評価している。



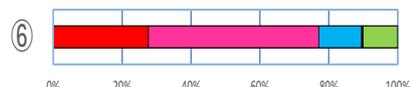
④学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。



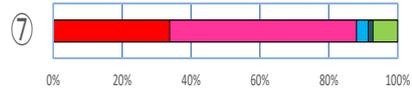
⑤児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。



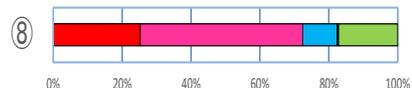
⑥学校は児童の健康・体力の増進に努めている。



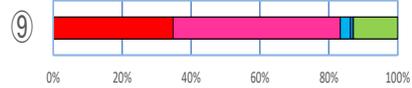
⑦学校は道徳教育に力をそそぎ、児童に思いやりの心や規範意識を育てている。



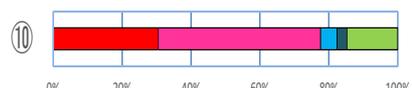
⑧学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている。



⑨学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で子どもの指導にあたっている。



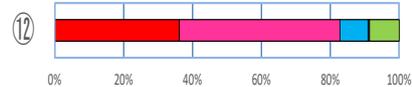
⑩学校は子どもの問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。



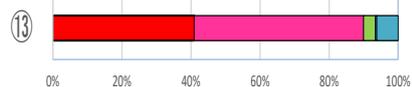
⑪学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。



⑫学校は保護者や地域の人々が積極的に教育活動にかかわれるようにしている。



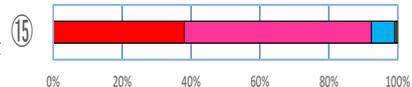
⑬学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。



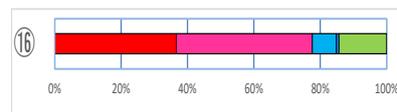
⑭学校は行事や学校公開などを通して児童の生活がわかるようにしている。



⑮学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切である。

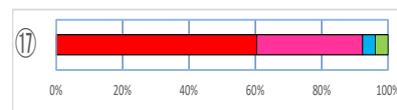


⑯ 学校はコンピューターや図書室を十分活用している。

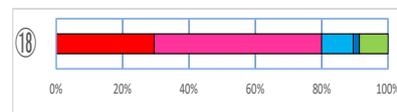


⑰ 学校は地域を生かした教育活動や行事がある。

(町探検・神田祭の学習・老舗学習・学生工房との日本橋の学習・金融授業)



⑱ 保護者は学校の教育活動に積極的にかかわっている。



○ 2-6 学校は児童の健康・体力増進に努めているについては

今年度はオリンピックや競技の専門家（水泳、走り方、投げ方）の指導により多くの児童が、主体的に運動する態度を高めることができました。また、校医による歯磨き教室、味覚教室等を行った。来年度も主体的に健康増進や体力向上を図るために児童の課題解決に応じた外部の専門家を招致するよう企画してまいります。

○ 2-8 学校はボランティア活動や清掃活動など様々な活動を行っています。

学校全体で行っている清掃活動は、新型コロナウイルスの感染対策として、活動学年を少なくし、安全対策を設けました。しかし実施時期に感染状況が上昇し、中止することがあり、実施回数が減りました。地域への奉仕活動は4年生の地域の花街道活動、有志による日本橋の橋あらいへの参加をしました。奉仕活動では、参加や活動について、学年単位での活動を中心に移行していきたいと考えています。また、5・6年生の委員会活動を中心にユニセフ募金やエコキャップ集めなど「自分たちができること」を考え、実施するなど活動の領域を広げています。児童たちの考えを尊重して活動を支援してまいります。

○ 2-10 「学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さず相談にのったり指導したりしている。」については、否定的な意見の数値は昨年度より下がりますが、児童数の増加に伴い、課題の数も内容も多様化しており、自由記述では、多くの意見が寄せられました。児童によっては話しやすい環境づくりのため、困ったことがあれば学校の大人の誰にでも相談できる体制を整えております。児童たちの課題の内容によっては、スクールカウンセラーや教育関係機関と連携を図り、教員個々の教育相談能力や児童一人一人の課題に対応した指導能力の向上を図ってまいります。

○ 2-16 学校はコンピューターや図書室を十分活用しています。児童の自己評価は肯定的評価が8割ですが、図書室の活用については、高学年になると利用が少なくなる傾向があるようです。図書の貸出し量は二極化しており、貸出量の少ない児童には読書への関心を高められるよう、図書館指導員、区内図書館と協力し、読書カードの活用やおすすめの本の広報活動の充実を図ってまいります。保護者の自由記述で、児童にタブレットの使い方のルールの指導が徹底できていないとの指摘もありました。「SNS学校ルール」や「SNS家庭ルール」を活用しながら、指導を継続して行ってまいります。

○ 2-18 保護者は、学校の教育活動に積極的に関わってくださっています。新型コロナウイルス感染状況が日々変化しており、中止や延期などで保護者の皆様にご協力をいただく機会が減ってしまいました。しかし、今年度の開校150周年記念式典関連行事では、たくさんの方々にご支援をいただいたことには感謝しております。来年度は新型コロナウイルスの感染状況や教育活動を行う上での国、都、区、教育委員会のガイドラインをもとに安全に活動に参加できるようにしてまいります。

○ 「学校は児童の健康・体力増進に努めている。」については

今年度はオリンピックや競技の専門家（水泳、走り方、投げ方）の指導により多くの児童が、主体的に運動する態度を高めることができました。また、校医による歯磨き教室、味覚教室等を行った。来年度も主体的に健康増進や体力向上を図るために児童の課題解決に応じた外部の専門家を招致するよう企画してまいります。

◆児童のアンケート結果より

「先生に悩み事など相談しやすいか」については、肯定的評価の割合が昨年より増加はしていますが、まだ、全体の10%程度の児童が相談しにくいと感じていることが分かりました。児童の相談体制は、定期的に学校生活アンケートや授業前や放課後の時間を活用するなど、児童一人ひとりの課題は学校全体の課題として、教職員全員で解決のために取り組んでまいります。

3 今後の改善方策

今回の保護者アンケートでは全体的な傾向としまして、昨年度のアンケート回収率よりやや増加しました。新型コロナウイルス感染予防のため保護者の皆様や外部への公開が制限され、学校の状況がよくわからないという状況のため回答率が低下していると考えております。アンケートの回収率向上に学校評議員や外部評価委員、みどり会などの外部関係者の方々や保護者の皆様からのご意見を伺いながら改善を図ってまいりたいと考えております。

保護者の方々が学校の様子を知るために行事や学校公開。保護者会等について「制限する・できないこと」から「できる方法」を考え、今まで行ってきた行事等を見直し、実施できること増やしてまいります。